

新たに広がる都市交流

鳥取市は、関係の深い国内外の都市と姉妹都市の提携を結び、行政・教育・文化・経済などさまざまな分野の交流を通じて、互いに発展を図っています。
そして、また一つ鳥取とゆかりのある福島県郡山市と新たな交流がはじまります。



大正13年に市制施行を記念して建てられた大正建築を代表する「公会堂」。郡山市のシンボリックな建物で、国の有形文化財として登録されています。



郡山市のランドマーク「ビッグアイ」は県内一の高さを誇り、最上部の「ふれあい科学館スペースパーク」にある地上104.25mのプラネタリウムは、世界一高い場所のプラネタリウムとしてギネスブックに登録されています。

ゆかり あさか 縁は旧鳥取藩士の 安積開拓に始まる

明治時代のはじめ、政府は国家の近代化を推進するため、士族授産（職を失った武士へ就業を奨励する政策）と殖産興業（国内産業の育成と経済の自立化を図る政策）を目的に、安積地方（郡山市）の原野を開拓する大規模な営事業を行いました。

旧鳥取藩士は、明治13年から入植を始め、同20年までに熟練した農民や大工などを合わせた67戸270人余りが移住し、1戸あたり3町6反（360ル）の原野が与えられ、現地の農民2戸を加えた

69戸で「鳥取開墾社」を結成し開拓に従事しました。

開拓事業はとても過酷で、苦勞の連続だった移住者たちは、明治16年、心の支えとして国府町の宇倍神社の分霊をまつり、困難を極めた開拓事業を成し遂げました。

郡山移住に関する資料の 発見が、市民交流へ

入植から115年の歳月が過ぎた平成7年、当時の鳥取女子高等学校（現在の鳥取敬愛高等学校）の社会部の生徒たちと顧問の小山富見男教諭が、調査のため郡山市を訪れた際、当地の宇倍神社で偶然に旧鳥取藩士たちの郡山移住に関する



11月下旬になると数百羽の白鳥が訪れる猪苗代湖。背景にそびえる雄大な磐梯山を望むロケーションは圧巻